

語り合い わかり合い 支え合いで 深まる絆



発行所
大分市下郡字長谷496の38
大分県教育会館2F
大分県PTA連合会
☎(097)556-9055
責任者 藤田 千克由
印刷所 大分市下郡3154の22
九州凸版印刷機



県P会長、16郡市を行脚

藤田会長新体制がスタート。相互理解によるPTA活動の充実と発展を目指し、7月から10月にかけて県内16の会場で行脚(郡市意見交換会)が行われた。会長・副会長・事務局長・事務局次長らが各郡市を訪問。郡市P連役員や単P会長と膝を交えて論議がなされ、お互いの「絆」が強まった。

「各郡市P連を訪問し、役員の方たちと直接話をする」としてお互いを良く知り、理解し合いたい」という藤田千克由県P連会長の熱意から今回

「会長行脚」が行われた。この会で、376名と話すことができ、県P連活動に対する理解と協力体制が強まった。また、郡市の状況や意見を直接聞く良い機会となった。



笑顔輝く子どもたちのために

緊急アピール 「いじめ根絶と命の尊さを訴える」

- 一、私たちは、「子育ての第一責任者である」ことを再認識しよう。
- 一、子どもたちに「いじめはしてはいけない事だ」と教えよう。
- 一、子どもたちに「命の大切さ」を教えよう。
- 一、子どもたちの日頃の言動に気を配り、子どもたちが発するシグナルに注意しよう。
- 一、「いじめ」に気がついたら、素早く対応しよう。

社日本PTA全国協議会は、「いじめ」をなくし、子どもたちを守るため、以上のことを緊急アピールした。子どもたちに「いじめ」はいけないことだときちんと教えるとともに、家庭教育のあり方を改めて問い直さなければならない。いじめなどの相談については、学校の先生やスクールカウンセラーの他、次の所にお問い合わせください。

- 大分県教育センター教育相談部
☎097-503-8987
●学校教育に関する相談を受け付けています。
●月～金 9:00～17:00
- いじめ・不登校対策相談室
中津教育事務所.....☎0979-25-2212
別府教育事務所.....☎0977-67-6396
大分教育事務所.....☎097-532-3245
佐伯教育事務所.....☎0972-22-1818
竹田教育事務所.....☎0974-63-2189
日田教育事務所.....☎0973-23-7631
●いじめについて子どもや保護者からの相談に応じています。
●いずれも月～金 9:30～17:00

「一般教員の代表を役員に加えた独自の組織体制、学校と保護者の連携によるフォーラムの開催、郡市内のIT化の状況、有害図書についての意見など」が報告された。「初めて会長に郡市まで足を運んでもらい感謝している。自分たちの思いを届けられ有意義な会であった」という感想も聞かれた。



熱心に意見を交換する参加者

●単P会長会
県内全小中学校PTA会長が一堂に会しての研修会を行いたいという前会長の思いを受け継ぎ、本年度実施となった。

●中3学力テスト
高校改革推進計画に伴い平成20年3月「普通科高校の全県一区」が導入される。これに対応するための進捗資料がほしいという保護者の声がある。

●PTA補償共済制度
平成18年4月1日に保険業法が改正され、特定保険業者の届出を9月27日に行った。1年度後の平成20年3月31日に共済制度は廃止され、共済内容はそのまま保険会社に移行し現在の補償制度を充実させることを厚生部会で決定した。留保金については、県P特別会計に繰り入れ、運用については理事会にて検討を重ね、九P大分大会の自己資金等へ当てることを説明した。今後、制度の廃止により郡市P連への補助金減など県P連営上の問題が出され、会費値上げも視野に入れた検討がなされるだろう。

●九P研究大会大分大会
参加要請数が例年の九P大会の4.5倍(2800名・一人3500円)となる。各郡市での予算組みをお願いした。参加者からは、全会員でやるという考えや体制が必要、切り詰める所は切り詰め、広告収入も考えてはどうかといった意見も出された。

●IT化
現在の社会情勢や緊急性から見ると県P連としてもITを使った情報発信が必要とされる。本年度特別専門部会にIT活用検討部会を立ち上げ、外部業者への委託も視野に、来年度不審者情報等県P連に相応しいメールを送れるシステムを作りたく考えている。

●PTA補償共済制度
平成18年4月1日に保険業法が改正され、特定保険業者の届出を9月27日に行った。1年度後の平成20年3月31日に共済制度は廃止され、共済内容はそのまま保険会社に移行し現在の補償制度を充実させることを厚生部会で決定した。留保金については、県P特別会計に繰り入れ、運用については理事会にて検討を重ね、九P大分大会の自己資金等へ当てることを説明した。今後、制度の廃止により郡市P連への補助金減など県P連営上の問題が出され、会費値上げも視野に入れた検討がなされるだろう。

第52回 社日本PTA 九州ブロックPTA研究大会大分大会 シンボルマーク決定!

県内の小中学生・PTA会員より寄せられた76作品の中から「メインシンボルマーク」が決まった。



デザイン 早島佳子氏 (大分市立城南中学校PTA会員)

大分県を代表する温泉。湯煙で子どもたちを表現し、3つの輪は、家庭・学校・地域を表す。3つの輪で子どもたちを包み込みはぐくむ姿をイメージしている。背景は別府湾、世界へと広がる子どもたちの限らない可能性を象徴している。

子どもたちはテストに大変過敏です。答え合せに夢中、「合った」「間違った」の世界です。限りなく正答に近い答えや途中まで正しい答えに部分点でも与えようものなら取捨がつかなくなりま。○×、△はないのです。一般に△は白でもなければ黒でもない灰色。実はこの紛らわしい△の曖昧さの中に学びの楽しさ、学びの核があったりするのである。▼今やテストの主流はペーパーテスト、それもアチーブメント方式のそれです。この方式では関心や意欲、態度など学習を支える情動面の評価は困難で、表面的な学力の断片を調べるにとどまっています。近年の入試で小論文へのウエイトが高くなってきたのは、意欲や考え、人柄や人生観などまで覗けるからでしょう。▼性急に結果ばかり求め、過程をおろそかにするのは本末転倒です。学習の本質は答えに至る筋道にこそ学ばべきその多くがあり、生涯学び続ける人間にとって、「学び方」(探求の仕方)を身につけることこそ重要で、時には答えの出ない問題や正答のない問題があつていいのです。このケースでは答えの出ない理由を述べるほんものの力が要求されるから。しかし、始めからいく通りもの答えを想定したり、想定外の答えが続出したりする設問は決して用意されません。テストの客観性・効率性の側面から結果的には類型的な問題ばかりになるのでしょうか。▼ところで日常生活でも常に効率のよい安全ばかりを求めていると、思わぬ危険の落とし穴もあります。人生は正解のない旅、自ら設問し、自ら解を求めて歩む旅だと若い時から教えた方がいいのです。

平成17・18年度 大分県PTA連合会指定研究発表会

組織・継続・実践でつなぐ未来

平成17・18年度の2年間にわたり県PTA指定研究に取り組んできた2校のPTAがそれぞれの公開発表を行った。未来を担う子どもたちを、家庭・学校・地域で連携して育てていくために必要なそれぞれの役割を再確認し、相互の関わりを一層深める活動の数々であった。

PTA指定研究発表は、昭和24年、県教委が始めたのをきっかけに昭和31年から県PTAと共催で引き継がれており、他県にはない大分県PTA連の特色ある事業である。現在は、大分市より1単位PTAと、県南・県北の各都市より2単位PTAを指定、2年間の研究の成果を公開発表し、今後のPTA活動の振興を図り、大きな成果をあげている。(ただし、今年度は、指定研究該当北海道郡が大分市に合併したため、発表は2校となった)



中津市立今津小学校PTA研究発表会

中津市立今津小学校PTA(児童数240名、会員数189名)は、「思いやり」を大切にする今津っ子づくり(人・物・自然を通して)を研究主題とした。各学年ごとの公開活動では、2年間を通して人・物・自然への思いやりを通して思いやりの心をはぐくむことに取り組んできた母親役員たちによる授業が展開された。

1・5年生は「物を大切に」、2・4年生は「自然を大切に」、3・6年生は「思いやり」を大切にする今津っ子づくり(人・物・自然を通して)を研究主題とした。各学年ごとの公開活動では、2年間を通して人・物・自然への思いやりを通して思いやりの心をはぐくむことに取り組んできた母親役員たちによる授業が展開された。

3年生は「昔の家族」授業。授業では、子どもが「どうして、子どもがこんなきつい仕事をしていたのかな?」と疑問を抱き、昔の家族の生活の様子を調べ、ゴミ拾いを続けていくことと、ゴミの分別の意識付けを、5年生は自分たちで育てた米や実際に作ってみたい味噌等を使って調理すること、リサイクル品の活用等を学んだ。

地域みんなを支え合い。午後のアトラクションでは、3・4年生の子どもたちによるボーダーパーカッションが披露され、元気な歌声に合わせて手や体の各部をリズムカルにたたき音の世界を表現。

4年生のポスター作り。みんなで一つのことに楽しく取り組んだ様子がうかがえた。全体発表は、実践活動の内容を各専ら門部・各学年部の部長がそれぞれスライドを使って報告した。「地域のみんなで見ればまわりの大人の姿がわかる。子どもたちを見守るあたたかい目が、子どもたちの自己有感をはぐくむことにつながっている。今津小PTAの底力を感じた」と、指導

「PTAは、楽しくなければPTAじゃない。家庭・学校・地域のみんなが楽しく活動することで子どもたちも楽しく過ごせる」の言葉とおり、地域の人たちの寛大な受け入れを背景に、いかに楽しくPTA活動をするかを工夫した様子が見られた。

思いやりのある今津っ子 11月19日



アイマスクをして盲導犬体験する子どもたち

1年生は「秋の木の葉や葉でリースの飾り付け、5年生は稲わらを使ってリースの土台作りから飾り付けまで、行なった。1年生は弟や妹と一緒に家族で取り組む、5年生では地域のお年寄りが稲わらを巧みに扱い縄をなうお手本を見せてくれるなど、共同作業を楽しむことができた。

大人気のパソコンクラブでは、「はくのわたしの金池じまん」と題し、パソコンを駆使して、大分県内各地の観光名所や、大分県の特産品などを紹介する動画を制作した。

将棋クラブの風景。将棋のルールや基本的な動きを学び、対戦を通じて将棋の楽しさや奥深さを体験した。

公開授業・クラブ発表の後、中庭にて恒例の「ひしのみバザー」が行われた。父親クラブのみなさんの作る「焼きそば」は毎年大人気、今年はアツと言間に300食が完売。「ひしのみバザー」の地域への定着ぶりが見られる。

須股恵美子県教育庁生涯学習課社会教育主事は「PTA活動を通してたくさんの人とふれあっている中で、親自身が成長し家庭教育力の向上へとつながる。親の学ぶ姿、人を信頼し人付き合いの姿勢から子どもたちも人間関係を学ぶだろう。『緩やかな絆をたくさん結んでいく力』が素晴らしい人間関係を紡ぐ。ずっと続いて欲しい」と指導講評した。

歴史と魂を受け継いで 11月11日

使した原稿づくりを行った。また、女子児童に人気のある茶道クラブは、参加者の方たちにお茶をふるまひ日頃の活動の成果をみせた。指導に当たっているゲストティーチャーは「四季折々の紋様の入った器を子ども好みのものにするなどして、子どもたちが日本の年中行事にも興味を持つような工夫をしている。礼儀作法とおもてなしの心をゆつくりはぐくんでいきたい」と語った。

父親クラブの「焼きそば」。焼きそばの準備や調理の様子を見学し、親子で焼きそばを食べた。

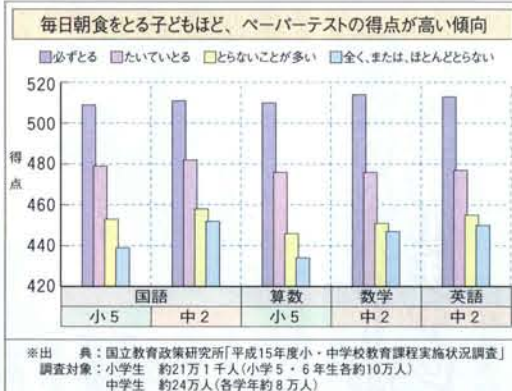
「PTAは、楽しくなければPTAじゃない。家庭・学校・地域のみんなが楽しく活動することで子どもたちも楽しく過ごせる」の言葉とおり、地域の人たちの寛大な受け入れを背景に、いかに楽しくPTA活動をするかを工夫した様子が見られた。

子どもの生活リズム向上

基本的な生活習慣の乱れによる子どもの生活リズムを危惧する声が各方面から上がっている。神山潤東京北社会保険病院副院長が小児科医の立場から体力に、陰山英男立命館小学校副校長が教育者の立場から学力に、警鐘を鳴らしている。その中で、今年4月「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動がスタートした。



今考える



社会生活のスタイルが複雑化する中で、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さが叫ばれている。その効果については、図からわかるように、生活リズムが整って朝食をきちんと食べている子どもは、学力・学力面で得点が高い傾向にある。また、睡眠時間を6、8時間きちんと取っている子

「早寝・早起き・朝ごはん」で学力・体力・気力の向上を

親の関心が決め手

小学生と中学生の母親であるAさんの場合。3歳の娘の生活を、この秋から一変させた。「幼稚園の頃は、絵本の読み聞かせをして8時半までには寝かせていた。小1になると絵本は自分で読めるし、仕事が忙しくなったこともあり、「もう寝る時間よ」と声をかけるもの、持ち帰った仕事をしつてしまおうと10時過ぎまでパソコンに向

生きていく上で大切な力

中学生の母親であるBさんの場合。「中1の夏休み前PTA懇談で先生が「毎日の生活リズムをくずさないことが大切。カギとなる就寝・起床時刻と食事時間を守らせて、規則正しい生活を送るために学校に行く時と同じぐらいの時間に起こして下さい」と強調したのに驚いた。今は部活もあり寝るのは11時過ぎになっている。起きる前に家事も

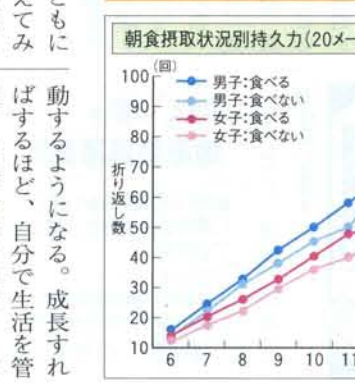
片づけたいし、少し寝かせておこう」と思っていたBさん。「ちょっとした甘やかしや親の都合で、折角規則正しい生活習慣がついていた子どもリズムをくずすところだった」中学生になっても、親が生活リズムを考え整えることの大切さを痛感したBさん。「夏休みの終わりに宿題でできることもなく、計画通りにできなかったで意欲をもって2学期を迎えられた」と振り返った。

今回、生活習慣が子どもに与える影響について考えてみた。すると、大人が考え整えなければならぬ現状が、浮かび上がってきた。

睡眠・栄養が充分にとれていれば、子どもは意欲的に行動するようになる。成長すればするほど、自分で生活を管理する力が必要になってくる。生きていく上で大切な力を養うために大人が、子どもの生活リズムを向上させる手助けをする時ではないだろうか。

「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動って何？

社会の夜型化が進み、子どもたちの睡眠時間が減少している。このことが、学習意欲や体力、気力の低下などに大きな影響を与えている。生活リズムの重要性を再認識し、基本的な生活習慣の改善を図ることが急務となっている。学校・家庭・地域が一体となって、心身ともに健康な子どもたちの育成を目指すため、社団法人PTA全国協議会も発起人となり、「早寝・早起き・朝ごはん」全国協議会が設立された。



「早寝・早起き・朝ごはん」運動を家庭から

大分県生活環境部私学振興・青少年課長 一宮 誠一郎

子どもは、親の生活リズムを真似て育ちます。朝ごはんを食べる習慣は、子どもの生活リズムを整える上で大切な役割を果たしています。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの学力や体力、気力が向上します。

親が子どもの生活リズムを整えるには、まず大人自身の生活リズムを整えることが大切です。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの生活リズムを整えることができます。

親が子どもの生活リズムを整えるには、まず大人自身の生活リズムを整えることが大切です。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの生活リズムを整えることができます。

それぞれの立場を思う

親の立場から、子どもの生活リズムを整えるには、まず大人自身の生活リズムを整えることが大切です。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの生活リズムを整えることができます。

「夜9時に電気を消す、朝7時に起きる」「朝ごはんを食べる、学校に行きついでに！」

昨年、県が募集した「わが家のルール・べからず集」のなかの例です。家庭は、子どもにとって最初に出会う、しかも一番身近な社会です。家族が楽しく過ごし、お互いに成長していくための決まり(家訓)をつくり、社会の決まりを守る意識を身につけるようにしたいものです。

食事や睡眠は、もともと基本的な生活習慣です。

深夜のお店で見かける親子、登校中の児童に「お早う」と声をかけても、元気がなく無表情な子どもたち。大人が夜更かしをしていると、子どもも大人の生活リズムに引きずり込んでしまいがちです。最近、朝食を取らない子どもが増えています。朝食を取らない子どもは、毎日食べる子

子どもよりも、「すぐキレて暴力に及ぶ」ことが多く(「中・高校生生活に関する調査大分県教委、テストの得点も低い傾向がある(小・中学校教育課程実施状況調査)国立教育政策研究所とされています。子どもに基本的な生活習慣を身につけさせるためには、大人自身が親の責務を自覚し、自分たちの生活

計画を策定しました。家庭教育の重要性や青少年の模範となるべき大人の在り方を問う声が多く寄せられ、計画に反映させました。

その一つが、今年スタートしました「大人が変われば子どもも変わる」県民運動です。子どもは大人の考えや行動をよく見ています。まず大人自身も子どもにお手本を見せて、子どもを温かく見守り、支えてあげましょう。

県民総ぐるみの取り組みとして、あいさつ運動と公共マナーの向上運動を提唱しています。家庭や地域で、PTA活動として、積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。また皆さんご自身が感じ、実践されている「大人が変われば子どもも変わる」と思っています。あなたの取り組みを「大人が変われば子どもも変わる」県民運動ホームページにお寄せください。

(http://www.pref.oita.jp/13255/00naka.html)

親が子どもの生活リズムを整えるには、まず大人自身の生活リズムを整えることが大切です。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの生活リズムを整えることができます。

親が子どもの生活リズムを整えるには、まず大人自身の生活リズムを整えることが大切です。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの生活リズムを整えることができます。

それぞれの立場を思う

親の立場から、子どもの生活リズムを整えるには、まず大人自身の生活リズムを整えることが大切です。朝ごはんを食べる習慣を身につけることで、子どもの生活リズムを整えることができます。



親子一緒に体験活動

取り組みとしては、夏には



たくさん、つかまえるぞ
「昨年8月実施の魚のつかみどり大会」

お父さんパワー炸裂!
『野津小チャレンジ部会』

臼杵市立野津小学校PTA

野津小学校PTAの「チャレンジ部会」は、父親のPTA活動への参加促進と、父親ならではの特色あるPTA活動の推進を目的に2002年度に新たに組織された部会です。部会員は現在37名で年に4回程度の活動を行なっていますが、企画から準備・材料調達・講師にわたるすべてを部会員で行なっており、各職業のプロであるお父さん方の技術や行動力がこの部会を支える大きな力となっています。



分科会に多くの参加者

栄えある受賞の方々

各分科会終了後、第51回九州ブロックPTA協議会主催によるPTA功労者表彰式が行われた。団体表彰、個人表彰、記念講演を行った。

2日目の全体会では、大会宣言が満場一致で決議され、次期開催地滋賀県へと大会旗が引き継がれた。

続いて、田中荘一郎文部科学省生涯学習政策局長が「教育基本法案について」と題し記念講演を行った。

第54回(社)日本PTA全国研究大会
みやざき大会

愛する子どもたちの笑顔のために「eye・I・逢い」を大会スローガンに第54回日本PTA全国研究大会みやざき大会が8月26・27日の両日開催された。

全国から約8500名(大分県から584名)が参加。宮崎市のワールドコンベンションセンター「サミット」をメイン会場に開催。パネル討論や基調講演を通じて、子どもを取り巻く諸問題について意見交換がなされた。

初日は、同市内5ヶ所で10の分科会が開かれた。第4分科会では、全国PTA広報紙コンクール表彰式が行われた。基調講演された諏訪園達雄市役所総務課秘書係長は串間市の発行する広報紙「広報くしま」の編集を10年間担当。取材活動を通して地域住民とパートナーシップを持ち、市民から読まれ愛される広報紙作りを目指した。今や全国広報コンクール入選の常連組となった現在までの編集過程などをわかりやすく伝えていた。



来年の大分大会をアピール

異校種ネットワーク事業「地域の宝」
心は一つ「家庭・学校・地域」

全国に先駆けて異校種PTAが中心となって、学校との協力のもと地域の協力を得ながら、子育てを行う事業「地域の宝」の取り組みがよいよ総まとめの3年目に入った。

今年度の拠点校(中学校)及び協力校(高等学校)は下表の通りである。

4月から各校とも活発な取り組みがなされた。

拠点校・協力校説明会が4月21日(金)に開催され、組織、事業、経費等について綿密な説明及び協議が行われた。

●平成18年度「地域の宝」拠点校並びに協力校●

地区名	市町村	拠点校PTA	協力校PTA
中津	豊後高田市	豊後高田市立高田中学校	大分県立高田高等学校
別府	国東市	国東市立富来中学校	大分県立国東高等学校
大分	津久見市	津久見市立第一中学校	大分県立津久見高等学校
佐伯	佐伯市	佐伯市立鶴谷中学校	大分県立佐伯鶴谷高等学校
竹田	豊後大野市	豊後大野市立三重中学校	大分県立三重総合高等学校
日田	日田市	日田市立東部中学校	大分県立日田高等学校
大分市	大分市	大分市立明野中学校	大分中学校・大分高等学校
			大分工業高等専門学校(特別協力校)

平成19年度九州ブロックPTA研究大会
大分大会に向けて準備状況⑤

12月1日、九州ブロックPTA協議会理事会在大分で行われた。県PTA提案の各分科会の研究課題(◇討議課題・趣旨)の討議の柱・視点について了承を得た。県PTAには既に、理事会・事務局長会で資料を提供している。

加えて、各分科会会場も確保され、分科会の要請数等記載することが可能となり、大分大会要旨案として会場並びに分科会要請数を示している。参考とされたい。

さて、本紙面にも九P大会のシンボルマークや、県下2800名の要請数など記されている。

さらには、大会当日のスタッフとして、各郡市から若千名の応援をお願いすることになる。

また、懸案の全体会記念行事を、予定どおりミュージカルで進めることに決定した。オーディションを仕組むなど、発表に向け、来年度から、夏場の合宿練習などを含め、舞台稽古に入る。県下の子どもたちによる素晴らしい舞台が今から待ち遠しい。

もちろん、広範に趣旨に賛同される方々の協賛を募る活動を開始しているが、会員の皆様方の積極的な協力を期待したい。

大分県PTA連合会事務局

平成18年度 優良PTA功労者表彰
おめでとうございます

文部科学大臣表彰 (以下敬称略)

(団体) 大分中学校PTA(大分市) 高瀬小学校教育友会(日田市)

(個人) 今山 智行(佐伯市)

九州ブロックPTA会長表彰

(団体) 長洲中学校PTA(宇佐市) 庄内中学校PTA(由布市) 佐伯南中学校PTA(佐伯市) 竹田中学校PTA(竹田市) 北部中学校教育友会(日田市) 上野ヶ丘中学校PTA(大分市)

(個人) 中島 一志(別府市) 安部 尚雄(豊後高田市) 藤本 友則(日田市) 利根三喜生(前県PTA連合会長) 松永 法子(前県PTA連合会長)

(感謝状) 大分県PTA連合会事務局

反抗期 どう接したらいいの?
みんながながえる
苦勞する 友だちづくり

大変苦勞していると言われることがあります。いつ仲間はずれにされるかわからない、そのことにいつも神経をつかって、グループの中で本当のことが言えない。自分の本心を偽って仲良しのふりをすることで自分を守る。

このようなことで、神経をすり減らす関係づくりともいわれています。

家庭では、良好な人間関係を基本にして、会話を通して子どもの様子に気を配り、自分に自信が持てるように良さや可能性を引き出す取り組みを勧めます。

みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

慶祝

「はれつ」と担当の渡辺恭英氏が、大分合同文化賞を受賞されました。

平成18年「たのしい子育て全国キャンペーン」家族の風景3行詩(一般の部)で山城早苗佐伯市立色宮小学校教頭が厚生労働大臣賞を受賞されました。

お母さん 幾つになってもお母さん オムツをしてもお母さん

編集後記

「まなざし」は紙面の都合でお休みします。

みやざき大会に参加し、PTA会員の熱気に感激! 護るべきもの、変えるべきもの。大人が変えれば...

取材先の小学校。子どもたちの素朴な笑顔に癒される。

『はくく美』編集委員募集!!

県PTA広報紙『はくく美』に興味のある方を公募しています。

(問い合わせ先) 大分県PTA連合会事務局 TEL 097(556)9055 ◎お待ちしております...